

## 連載・特別寄稿

民謡紀行  
《4》

柳原 藤忠

(昭和39年工業化学科卒)



## ◇ 本荘追分

本荘の花柳界で三味線の酒盛り唄として歌われてきたのが、この「本荘追分」である。本荘は港町で江戸時代は松前・大阪廻り北前船の寄港地であった。

キタサ キタサ

- ハア～ 本荘(キタサ) ハア名物(ハイ ハイ)  
ハア焼山の(ハイ ハイ) ハア藤ヨ(キタサ キタサ)  
焼けば焼くほど(ハイ ハイ)  
ハア太くなる(キタサ キタサ)
- ハア～ あちら(キタサ) ハアこちらに(ハイ ハイ)  
ハア野火付く(ハイ ハイ) ハア頃はヨ(キタサ キタサ)  
ハア共に咲く(キタサ キタサ)

この唄の源流は「信濃追分」が越後方面から蝦夷松前地方に流れていく途中、北前船の船頭達によって本荘に伝えられた。昭和32年NHKの「のど自慢」で河辺郡雄和町の「長谷川 久子」が「浅野梅若」の伴奏で優勝し、たちまちに全国に広まった、秋田の代表民謡である。唄も難しいが三味線伴奏もかなり難しい。

「秋田荷方節」「本荘追分」が秋田民謡の難しさで、東西の横綱と言った所か。唄に出てくる、蕨は山菜の女王である。葉の開く前のあの凛とした姿は美しい。勿論、食べて美味しく、私は叩きが最高で飯の共にも、酒のあてにも合う。

## ◇ 秋田甚句

秋田の情緒を良く表す秋田を代表する民謡で、秋田おばこと双璧なすのがこの秋田甚句である。仙北地方の盆踊り唄、或いは酒盛り唄として歌われて来た。古くは「仙北サイサイ」その後「仙北甚句」と言われ、大正時代に旧仙北郡神代村の「佐藤 貞子」が歌い有名になり「秋田甚句」と改題された。

- 甚句踊らば(ソレ) 三十が盛り  
(ハア ホイサカサッサ キタサカサイサイ  
キタカ コリヤコリヤ キタサカサッサ)
- 三十過ぎれば(ソレ) その子が踊る  
(ハア～ 繰り返し)
- 甚句踊らば(ソレ) 品よく踊れ  
(ハア～ 繰り返し)
- 品の良い娘を(ソレ) ササ嫁にとる  
(ハア～ 繰り返し)

横笛が華やかな旋律を奏で、三味線、太鼓、摺り鉦が効果的に調和して聞くもの見る者を浮き立たせる。私はこの曲の三味線を師匠から習う時は本調子で習ったが、余りにも手のうごきが激しいので、現在は二上がりで弾いている。

## ◇ 喜代節

角館を中心に歌われてきた祝い唄である。「ザックラ節」の別名もあるので、あるいは宝がザックラと言うような意味もあったかも知れないと私は思っている。戦前の角館地方では結婚式の一歩初めに必ずこの唄が歌われていたが、戦後はすっかり廃れて

いた。昭和41年NHK秋田がこの曲を取り上げ「佐々木 実」が復元、「長谷川 久子」の唄で放送してから再び歌われる様になった。

- 床に掛物 七福神  
庭に松竹 鶴と亀  
これの座敷に 舞い遊ぶ  
祝いましたや 鶴の声
- 謡い初めは 浦島太郎  
銀の盃 取りい出し  
黄金銚子で いずみ酒  
命永らえと 飲ませたい



佐々木 実氏

歌詞はすべて家を褒めたり、家の主人や婚礼の婿嫁を褒める内容である。これに宝がザックリ在ったら本当に素晴らしいが、あくまでも唄の世界の話であり現実には厳しい。

## ◇ 久保田節

唄の題名となった久保田は秋田市周辺の旧名で、藩主佐竹氏の居城を久保田城と言った事から「久保田節」と命名された、新作民謡である。歌詞は当時の秋田市長「児玉 政介」が作詞し、作曲は民謡歌手の「永沢 定治」が節づけをした。その後尺八の「菊池 淡水」が譜にして一般に広まった。

- エ～エ 嶽の白雪 朝日で溶ける  
ア～ア 溶けて流るる ヤレサエ～ 旭川
- エ～エ 旭川から 流れて末は  
祝いましたや 鶴の声
- エ～エ 雄物下れば お倉が見える  
ア～ア 出船入船ヤレサエ～ 港町

民謡と言うより小唄風の粋な唄である。秋田にもこんな小粋な唄があつて嬉しく思う。なんとなく佐竹さんの匂いもほのかに香る。秋田市内川端芸者の三味線でこの唄を歌ったら、しっとりして上手く歌える様な気がする。

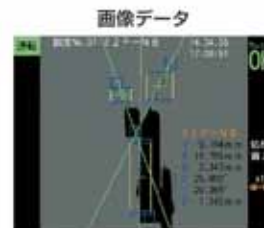
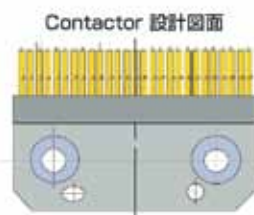
\*\*\*\*\*

株式会社 オー・ティ・ティ・エス  
OTTS CO.,LTD

IC 等の測定端子 Contactor の製造、販売



製品の特徴 ① 設計から納入まで Turn-Key Service  
② 長寿命 Long Life /14Pin で200K回の実績  
③ 高品質 全て Made in Japan の材料と Process



代表取締役 田中 誠悦 (昭和32年工業化学科卒)

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町211-6  
TEL: 042-666-1927 FAX: 042-664-7909